

2008年度前期、 フードマイレージの授業 「食べ物はどこから」 を終えて

レポート： 杉山 祐里子(SOE学生スタッフ)
北野 翔平(SOE学生スタッフ)



～板橋区の小学校5年生4校の授業感想から見える意識の変化～

「幼稚園のこどもに、魚の絵を描いてごらん、というとき四角形を書いた」

皆さんは、こんなニュースをご存知でしょうか。

このニュースは、子どもたちが「自分が口にする食べ物がどこからどのようにして食卓に届いたか分からない」ことを示しているのではないのでしょうか。そして今、この現象は子どもだけでなく大人の中でも起こっているのです。

私たちの食べ物はどこから来ているのか。それを知ることは何に役立つのか。

今回はこのことをテーマに授業を行いました。(授業スタッフは延べ25名であった。)

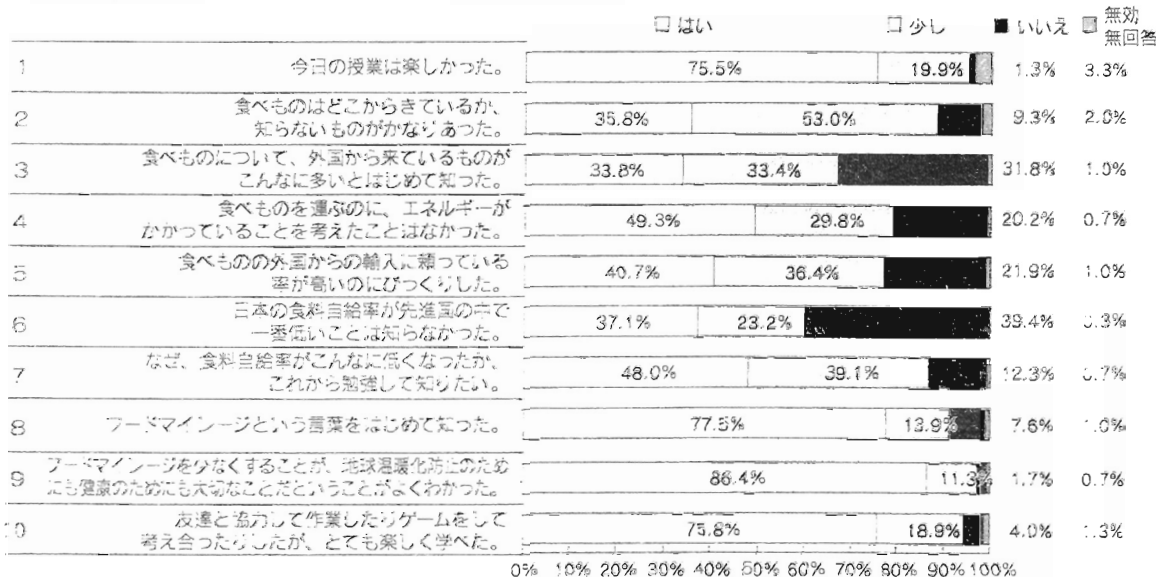
授業の最初は、スーパーのチラシに載っているいくつかの食材の産地を当てるゲーム。

フィリピンのバナナ、オーストラリアの牛肉、千葉のマグロ。子どもたちは自分たちが知っている産地を次々発言してくれました。ゲームでは正解は1つでしたが、ゲームで紹介した以外にももちろん正解の産地はたくさんあります。そう、どうやら食べ物はいろんな場所から来ているみたいです。

次に、産地マップ作りをしました。グループに分かれて、日本地図と世界地図にチラシの切り抜きを貼って産地マップを完成させます。

「見てみて、茨城県産の野菜や果物がたくさんあるよ!」「肉はオーストラリアやアメリカが多いね。」食べ物が生まれた場所を、一生懸命探してみんなで貼り付ける姿が印象的でした。(グラフ1 質問2,3参照)

グラフ1 授業感想まとめ (板橋第七小学校、志村第四小学校、桜川小学校、富士見台小学校)



さらに次は食材選びゲーム。グループ対抗戦です。カレーをつくるための食材を買うのに、どの産地の食材を選ぶかで勝敗が決まるゲームです。例えば豚肉は、アメリカ産 95 点、中国産 35 点、群馬産 2 点、宮崎産 14 点とポイントがつけられていますが、産地を選ぶ時点で子どもたちにはポイントがわかりません。

「ポイントが一番低くなるようにカレーをつくれたグループが勝ちです!」「ヒントは、ポイントが低いほど環境にやさしい、ということだよ。」

「ええ〜?環境にやさしいってどういうこと?」

「どんな産地を選べば環境にやさしいんだろう?」

読んで下さっている皆さんはもうお分かりでしょうか。そう、このポイントは「フードマイレージ (=食べ物の距離)」です。

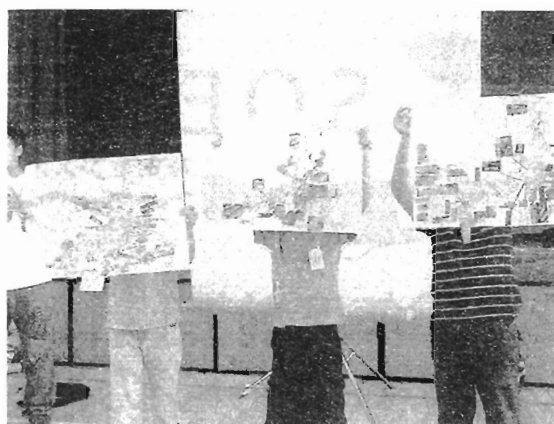
食べ物を生産地から食卓まで運ぶのにかかる距離が大きいほど、運輸・運送にかかるエネルギーは大きくなります。

運ぶには船や自動車、飛行機、電車と様々な交通手段が使われますが、その殆どが石油など化石燃料エネルギーを消費して動いています。エネルギーを消費すれば当然、CO2 を排出するので地球温暖化を進めることになるわけです。

つまりフードマイレージが高いほど、環境によくないということです。(グラフ1 質問4,8,9 参照)

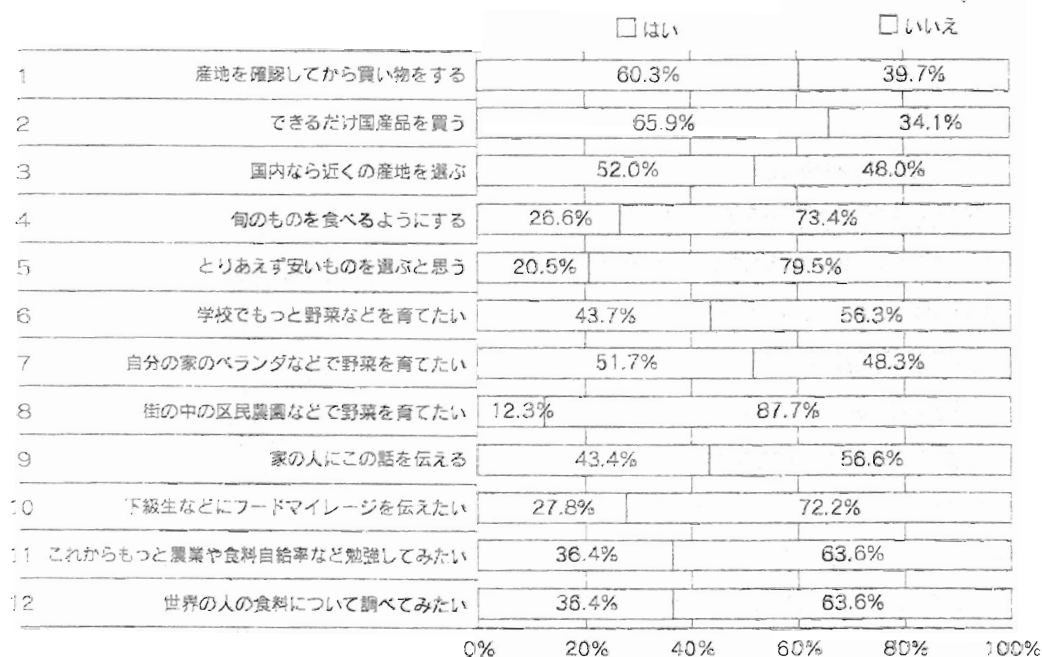
食料自給率が40%と低い日本は、先進国の中でフードマイレージの高さが世界一です。(グラフ1 質問5,6,7 参照)

授業のまとめでは、子どもたちにフードマイレージを低くして地球環境を守っていくためには、自分の生活でどんなことができるか考えてもらいました。その結果をグラフ2に示します。



SOE 学生スタッフによる授業風景
上・桜川小学校、下・富士見台小学校

グラフ2 これから自分で取り組みたいこと (板橋第七小学校、志村第四小学校、桜川小学校、富士見台小学校)



最後に、子どもたちが書いてくれた感想を一部紹介させていただきます。
「フードマイレージが地球温暖化にかんげいしていることがわかって、できるだけちかくの食べ物にしたほうがいいとおもった。」
「チラシで貼っていると茨城県がすごく多かった。茨城県のは茨城県の人に感謝して食べようと思いました。」

「フードマイレージを習って日本人は外国に頼りすぎだと思った。」
「フードマイレージというまったく知らないものを知れたのでよかった。もつと出かけるときや買い物に行くときにフードマイレージを考え自転車や歩きで行こうと自分の生活を考え直せました。」
「フードマイレージを知って家の人に言ったらおかあさんがもっといろいろ教えてくれた。昨日はとっても楽しかった、特にゲームが楽しかったです。」
「輸入をなくせないと思うけど、輸入を少なくするために努力をしたい」
「つい最近見たテレビでたくさんの国が食料不足で日本は応援しているんだけど応援の三倍くらいはごみと捨てていると聞いて少し悲しい。」

子どもたち1人1人が、それぞれ色んなことを感じながら、食べものから環境問題への考えを深めた授業をつくることができました。同時に子どもたちに語ることによって、この授業を指導した側の私たちが、フードマイレージを減らす行動を進める意をますます強くしたのです。

多くの小中学生・青少年・大人に食べ物～環境問題を伝えていきたいですね。

ネイチャーゲーム講習いよいよスタート！ —小・中学校環境学習—自然を感受する授業をつくる—

8月17日・板橋区エコポリスセンター

文・日本女子大学4年 佐藤佳苗

8月17日(日)、板橋区エコポリスセンター/前野公園(エコポリスセンター手前)にて、待ちに待ったネイチャーゲーム講習第一日目が始まった。メンバーは、我がSOEスタッフ8名と日本女子大学の学生2名。初めて顔を合わせる人もいたが、ネイチャーゲームを通し親睦を深めた！

ネイチャーゲームとは、五感を使い、想像力を働かせこの世界をさらに深く理解し、その尊さに気づくためのプログラムだ。幼児期から少年少女時代(小中時代)の子どもたちの柔らかな資質こそその対象である。それはおとなをも、魅了するものだ。



講習は、以下2つのステップで行われた。

第1ステップは、実際にネイチャーゲームを体験する事。小雨が心配されたが、緑豊かな前野公園。巨大な樹々の傘で、かえって神秘的な空気の中、ゲームを体験することが出来た。午前中は①はじめまして②私は誰でしょう③動物交差点④こうもりと蛾の4つ。午後は⑤カモフラージュ⑥フィールドビンゴの2つ。計6つのゲームを行った。

盛り上がったのは④！目隠しをしたこうもり1名、蛾3名が、他のメンバーが手を広げて作った丸い円の中へ。こうもりが「バット！」と叫ぶと、蛾は超音波で「モス！」と跳ね返す。その声を頼りに相手を捕まえるゲーム。皆子どものように声を上げ、熱中した。



他、⑤は自然の中から人工物を見つけ出すゲーム。よく観察していても、緑の葉に緑の物が置いてあると見つけにくい！そんな所にあつたのかと悔しがる学生も…。⑥はピンゴに書かれたものを公園内から探すゲーム。休憩時間も返上して探し続ける班もあつた程、時間を忘れてゲームを楽しんだ。

第2ステップは、体験したゲームを振り返りながら、ネイチャーゲームの理論を学ぶ事。実は、ゲーム一つひとつにはねらいがある。その全てを通して大切なのは「自然への気付き」！自然の音、匂い、空気を全身で感じ、発見する事。これが何よりも大切だ。その心構えとして、自分と他のメンバーが感じたことを「わかち合う」こと（自分はどう思い、相手は何を感じたかを共有すること/分け合うこと）を学んだ。

最後に、お互いの感想を言い合うディスカッション。将来教師を志す学生もいるので、非常に有意義な発表となった。“久しぶりに自然と向き合い楽しかった”“自分自身が楽しむことが大切”“将来授業で子どもに伝えたい”“大人は自分の記憶をよりどころに自然を思い出すが、子どもはこれから作っていく。だから”“感動を共有することも大切”“だが、何も言わなくてもその子の中に感動が残ればいい”等、真剣に議論。

3日間の講習を終えた時、果たして一人ひとりがどんな風に成長するのか。そしてその先に、私たちがどんな授業を行うのか、今から楽しみである。

● S.O.E. 活動報告 (2008年6月)

日	曜	内 容
1	火	フードマイレージの授業実施の打ち合わせ 桜川小・志村第四小へ
4	金	板橋区立板橋第七小研究紀要 原稿送付
5	土	日本女子大学教育学科教職授業、環境教育(寺田)
6	日	SOE 緑のカーテン作り継続実施 ヘチマ・ゴーヤ・フウセンカズラ・アサガオ・ナス・キュウリ・インゲン・ニンジン・ゴーマンなど(理事長宅)
8	火	板橋区立志村第四小5学年へ「食べ物はどこから」フードマイレージの授業実施。 SOEスタッフ8名 夕方 富士見台小へ フードマイレージの授業の打ち合わせ。
9	水	SOE7月号ニュース原稿作成
10	木	板橋区立桜川小5学年へ「食べ物はどこから」フードマイレージの授業実施。SOEスタッフ6名。
13	日	SOEニュース発行作業。2400部発送
14	月	板橋区立富士見台小5学年へ「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ授業実施。SOEスタッフ6名。
15	火	板橋区立板橋第七小5学年へ「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ授業実施。SOEスタッフ6名
18	金	板橋区環境教育プログラム全体のSOEとしての検討を行う。
21	月	SOE環境教育ワークショップ前期反省会
24	木	第3回板橋区環境教育プログラム部会出席
25	金	～29沖縄エコツアー現地との交渉・ツアーリストとの打ち合わせ・しおりづくり
8月		
3	水	沖縄エコツアー参加者へ しおり送付

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp